

あなたの「まなび」をナビゲート！ enjoy lifelong learning

ma·navi

生涯学習とっとり
vol.
184
2019.9
鳥取県生涯学習情報誌



定例会の後、やらいや逢坂のメンバーでパチリ！

特集

ひとりひとりの『やりたい』を カタチに

やらいや逢坂

- 04 私たちの活動をご紹介します！
アンサンブル済美(八頭町)
- 05 とっとり県民カレッジ連携講座情報
(9・10月)
とっとり県民カレッジで熱心に学ばれた
皆さんを紹介します
- 23 とっとり県民カレッジ講座を開催しました
- 25 鳥取県立生涯学習センター(お知らせ)
- 27 みてみて♪こんなしとするで～



いけだ ゆきえ
前事務局の池田幸恵さん

活動は、何か新しい企画をどんどん打っていったというのではなく、同じようなことだけ続けていって定着することを目指しています。ここでは、みんなが知らない間に知り合いになってしまうんですよ。地域課題や活動のアイデアを考えることが普段の会話の中でできるのがメリットですね。本当に地域のためになることは、みんなが賛同してくれるということを実感しています。

こばやし
現事務局の小林このみさん

私は、地元岡山で子どもをプレーパーク^{※(1)}によく連れて行っていたのですが、こっちに来たら全くなくて。それなら、自分でつくろう！と思って。3人目の子どもが産まれて、ちょうど首がすわったころでしたね。子どもを抱っこしながら、「子どもが自由に伸び伸びと遊ぶプレーパークを自分でやってみたい！」って、池田さんに相談しました。立ち上げたプレーパーク「冒険遊び場さち基地」（以下、「さち基地」という）は、今年で5年目になります。

たか みしょうじ
副会長の高見昇治さん

私自身、もしこの活動がなかったら、家でボーっとテレビを見て過ごしていますね。でも、今だったら「まぶや」があるから、ご飯を食べにいったれか知り合いがいるはずだから話もできる。行く場所ができたんです。自分たちの活動で一番すごいと思うのは、世代間のつながりができていること。おもしろい会話や知恵も生まれているんですよ。

ひとりひとりの『やりたい』をカタチに

おうさか
やらいや逢坂 大山町

世代をこえて地域内外のさまざまな人が交流し、住民が楽しいと思える地域づくりを進める「やらいや逢坂」。活動について、メンバーの池田さんと小林さん、高見さんにお話を伺いました。

まちづくりを行う地域自主組織「やらいや逢坂」

今から5年前、大山町のすべての校区でまちづくりを行う地域自主組織^{※(2)}を立ち上げる動きがあり、大山町妻木の高麗地区で「ふれあいの郷かあら山」が設立されました。その翌年の平成26年に、上市逢坂地区で「やらいや逢坂」が立ち上がりました。「やらいや」には、鳥取の方言で「やろう！」という意味があります。

「かあら山が、5つの柱で事業を始めたので、自分たちはそこを抜くぐらいの気持ちで、『集まり屋』・『彩らい屋』・『稼がい屋』・『育てらい屋』などの7つの柱^{※(3)}を事業として打ち出しました」と、設立当初から活動に携わる池田さん。

※(1) プレーパーク

子どもが「やってみたい」と思うことを、なるべく何でも実現できるようにめざした遊び場。禁止事項をなるべく設けずに、のびのび遊べる冒険遊び場のことをいう。

※(2) 地域自主組織

住民の積極的な地域づくりの参加や集落の連携により地区全体の活性化を図るための組織

※(3) **やらいや逢坂の7つの事業**

- 1つ目** 集まり屋（交流の場づくり）
まぶカフェ、逢19プロジェクト、まぶなび楽級など
- 2つ目** 彩らい屋（文化芸術活動）
月替わり展示（蔵ギャラリー、奥座敷）
- 3つ目** 稼がい屋（コミュニティービジネス）
なかやま温泉朝市（フリマ）、まぶカフェ1日店長など
- 4つ目** 育てらい屋（子育て支援）
冒険遊び場さち基地、アートスタート公演など
- 5つ目** 暮らさい屋（移住定住支援）
移住交流サテライトセンターのサポート
- 6つ目** 若がえらい屋（健康づくり）
ノルディックウォーキング、健康教室など
- 7つ目** ecoらい屋（資源活用、環境開発）
冬季、まぶカフェ内で使用する薪ストーブの管理
夏きりようの木料海岸清掃

コミュニティスペース「まぶや」が誕生

やらいや逢坂が発足する前年の平成25年に、「築き会」という移住者や若手起業家からなる団体が活動の拠点を探していたところ、築100年近い馬淵邸が空き家になっているのを知り、築き会が大山町役場に相談しました。持ち主の馬淵さんは「地域のためになるのであれば」と、寄付をする形で馬淵邸は町が所有し、築き会が「まぶや」と名付け管理することになりました。こうして、平成25年10月に、「地域」と「ひと」をつなぐ活動拠点として「まぶや」が誕生。カフェと移住定住の相談窓口である移住交流サテライトセンターが開設されました。

やらいや逢坂発足後は、築き会からカフェの運営を引き継ぎ、「まぶカフェ」をオープン。「ありがたいことに、メンバーがいろいろな方を連れてきてくれて。こちら辺は、コーヒーを飲むところがなかったので、みんなが集うことができる場所ができました」と池田さんは笑顔で話します。

また、築き会が運営する移住交流サテライトセンターのサポートも行います。「私たちの活動の一部は、築き会と連携しています。移住者などの若い世代と、地元の年配の世代が一緒になって交流しながらうまいことしているのはすごいことだってよく言われるんですよ」と高見さん。

おばあちゃんの家に戻ってきたような感覚

かつて医院だった「まぶや」は、当時のままの面影を残しています。座敷には手動でねじ巻きをする壁掛け時計が掛かり、中庭にある井戸からは、今でも水がでます。「何がすごいって、ここは病院だったので、みんなお尻に注射されてきているんですよ。ここは、みんなが知っている懐かしい場所なんです」と池田さん。また、「メンバーの中には、馬淵先生の往診時に専属で人力車を引いていた人や、住み込みで手伝いに来ていた人の親族がいます。不思議というか、縁を感じますね」。

地域の方に愛され続ける古民家の雰囲気これからも守り続けたいという気持ちは、活動当初から変わっていません。



木・金・土・日・月の11時から17時までオープンする「まぶカフェ」。毎週木曜日は、1日店長^{※(4)}によるいろいろなランチメニューが登場！食べもの持ち込みもできる缶詰barも月1回開催

※(4) 一日店長さん募集！～夢をかなえる第一歩～
まぶやで毎週木曜日のワンコインランチを提供する一日店長さんしてみませんか？(町内外問わず)

<こんな人におすすめ>

- 自分の作った料理を食べてもらうのが大好き
- 家で育てた野菜の料理を出したい
- 自分のお店を出す前に腕試ししたい など♪
お気軽にお問い合わせください。

おばあちゃんの家に戻ってきたような懐かしい場所でもある「まぶや」。「実家に戻ってきたけど、ああ、『まぶや』に行かないと。おばあちゃんの家に行きたい！っていう気持ちになってくれたら！」と池田さんは言います。

「まぶや」の由来と意味

まぶやの意味は、

- ① まぶい＝美しい
- ② まぶ＝本物 まぶだち＝本物の友人のまぶ
- ③ まぶ＝馬淵邸の2文字から

「まぶや」では、イベントや講座がほぼ毎日開催されています。9月・10月の行事など詳しくは、ホームページをご覧ください。



「まぶや」外観 かつては医院であった築100年近くになる馬淵邸

「まぶや」までのアクセス
JRで：山陰本線下市駅から徒歩10分
車で：国道9号線から松河原交差点を山側に入り、すぐ左折。800メートルほど道なりに進んだら右手

先生は地域の〇〇名人

「まぶなび楽級」はミシン縫いや絵手紙が得意な人、「健康教室」は近くの病院の理学療法士、「そば道場」はそば打ち名人というように、やりたいことやできること、好きなことで地域の人が先生になります。まぶカフェにきていたコーヒー好きなお客さんと意気投合し、焙煎について学ぶコーヒー教室を開いてもらったことも。その時の受講者が、今度はノルディックの講師になるなど、人が人をよび、つながりが生まれています。

また、プレーパーク「きち基地」を「そば道場」と同時開催することで、多世代が出会う工夫もしています。小林さんは、「季節になったら桑の実をとったり、外で火おこしをしたり。普段できない遊びができてすごくいい場だと自負しています。おじいちゃんと孫がいっしょにそば打ちをしたあと、きち基地で遊ぶ姿もみられます」とほほ笑みます。だれでも出店できる「なかやま温泉朝市」を担当する高見さんは、「ここは農業の地区なので、商売はなかなか難しいかもしれません。地元の人が稼ぐ仕組みをつくりたくて。うまくいけば雇用につながるのかな」とにっこり。

イベントや講座は、対象を決め、毎月の開催日と開催時間を固定しています。「曜日と時間が決まっていることは自分の生活の中に予定として入るのでとても大事なことです」と池田さんは運営のコツを話します。

活動をはじめて6年目。新しい取組も

設立当初は8名だったメンバーは、70代の元気なアクティブシニアを中心に34名にまで増加。まぶやに、地域内外からいろいろな人が出入りするようになり、地域がにぎやかになりました。「『自分が通える、出かけていける場所ができてよかった』と言ってくれる地域の方がいて。うれしかったですね」と小林さん。

新たに、共助交通としての移動タクシーと子ども食堂への取組も動き出しました。「人口が減っていくなか、地域のことは自分たちでどうにかしないと、これまでの行政主導のやり方では成り立たないことがだんだんとわかる人ができてきて」と高見さん。人口が減っても、世代をこえて地域内外のさまざまな人が交流し、住民が楽しく幸せに生きる仕組みづくりをみんなで考え、実践しています。

サポーター募集 (随時)

町内外問わず、「やらいや逢坂」の活動を応援して下さる方であれば、どなたでもイベント運営のお手伝い、拠点周辺の草刈りなど



毎週第3金曜日13時半から「まぶや」で開かれる絵手紙教室。だれでも気軽に楽しみ、道具の用意があるので手ぶらで参加できます！



「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーにした「きち基地」。毎月第2土曜日は「そば道場」と同時開催です！



近くのなかやま温泉エリア内で毎月第1日曜日の9時から開かれる「なかやま温泉朝市」。地元野菜が並びます！



地元の魅力も発見できるノルディックウォーキング！



そばうち名人の指導のもと、自分で打ったそばの味は格別！

連絡先 やらいや逢坂事務局／コミュニティスペース「まぶや」

〒689-3124 西伯郡大山町上市29 TEL080-1946-2614 (事務局 小林さん) <http://mabuya.weebly.com/>

